

愛知県 看護協会だより

vol.137
WINTER
2019

特集 ACP(人生会議)を考える

- 01 新年のご挨拶
- 02 表彰受賞者の紹介
愛知県看護研究学会
- 03-04 特集 ACP(人生会議)を考える
- 05 出前講座
- 06 看護職100年時代を生きる
- 07 地区支部コーナー
- 08 選挙公報
三職能合同集会のお知らせ
マンスリーニュース
- 09-10 ナースセンターニュース
- 11 理事会報告／お知らせ



<http://www.aichi-kangokyokai.or.jp>

健康であること、
幸福であること、
そのための看護。

公益社団法人 愛知県看護協会

新年の ご挨拶

会長 鈴木正子



新年あけましておめでとうございます。

皆様には健やかに新年をお迎えのことと思います。

会長を拝命して5回目の新年を迎えることができました。これもひとえに、皆様のご支援、ご指導のおかげであり、こころより感謝いたします。

さて、新たな年の始まりに際して、協会が真の意味で会員にとって必要な組織になるため、今やらなければならないことは、協会内部の組織の刷新であると考えています。

一昨年来、看護研修会館の新築計画を進めていますが、目指すべきものは会館ではなくセンターだと思います。センターは文字通り「中心」です。卒後継続教育だけでなく、県下に散らばっている看護に関するあらゆる情報やサポートが集約され、「あそこに行けば解決する」と思っていただけの、愛知県の看護に関する拠点です。この目的を建物の竣工時に実現するには、センターをしっかりと運営できる高い意識をもつ組織作りのための内部改革を始めていかなければなりません。センターがしっかりと運営されれば、信頼が高まり、多くの看護職に自らの強い意思で協会に入会していただき、その力が、協会の遂行する業務のスケールアップにつながると思います。

これは遠大な計画でしょうか。

本年は、平成という元号が4月で終わる大きな節目ですが、来年はナイチンゲール生誕200年にあたります。この偉大な先人は「あなた方は進歩し続ける限りは退歩していることになるのです。目的を高く掲げなさい。」という有名な言葉がありますが、さらには「進歩のない組織で持ちこたえたものはない。」という厳しい言葉も残しています。目標を高く掲げ、進歩ある組織を培っていくことは、37,000名を超える看護職にご入会いただいている協会が自ら取り組まねばならないことだと思います。

皆様とともに重点事業を肃々と遂行しつつ、干支のように猪突猛進とはいきませんが、着々と愛知県の看護の拠点づくりへの足場を築く年にしたいと考えています。

皆様のご健康とご多幸を祈りますとともに、本年も愛知県看護協会に一層のお力添えをお願い申し上げます。

表彰受賞者の紹介

皆さま、誠におめでとうございます。



平成30年度 秋の叙勲

瑞宝単光章 成田 澄江 (看護師) 元東海病院看護部長



愛知県表彰条例による表彰 保健医療功労者

村松 由美江 (保健師) 豊根村保健センター
山下 克美 (助産師) 社会医療法人 大雄会病院
鈴木 玲子 (助産師) 元(社) 愛知県助産師会理事
杉本 明子 (看護師) 元愛知総合看護福祉専門学校



母子保健奨励賞

出口 さとみ (保健師) 愛知県春日井保健所

平成30年度 愛知県看護研究学会

日程 平成30年12月12日(水) **場所** 愛知県産業労働センター ウインクあいち

テーマ みんなで考える職場環境

朝から冷たい雨が降っていましたが開場時間には青空が見え始め、演題31題、488名の参加者のもと開催されました。

国策で働き方改革が進み、医療現場にも大きく影響が及ぶ中、「看護師として環境の変化をいち早くつかみ、あらゆる場、あらゆる人に対して良質な看護を提供しなければなりません」と鈴木正子会長より開会に際して挨拶がありました。

身体拘束や退院支援・連携などの研究も多く、初めて参加した者からは「学会集録を開いてみたら興味ある演題が多く、もっと計画的にみていくべきだった」との言葉が聞かれました。示説会場では、発表後も演者と討論する参加者が多く、熱心に質問する参加者の姿から、今回の研究が間違いなく実践に生かされていくと感じました。

『感情労働としての看護～職場のストレスをどう生き延びるか～』と題し、日本赤十字看護大学名誉教授 武井麻子先生から特別公演がありました。「肉体的・心理的に死に直面し心的外傷を体験している患者に対面する看護師は、共感的ストレスからくる心理的疲労状態にあります。共感疲労は、諸症状や特徴を知って自分の感情を捉えることで予防します」との講義でした。感情の表出が少ない日本人は、個人的な取り組みだけでなく職場として取り組むことも重要であると感じました。

特別企画の研究倫理無料相談会の担当委員からは「みなさん、相談会を活用してください」と意気込みが聞かれました。田辺圭子学会委員長からは「今年度は、初めてテーマを考えて取り組みました。今後も皆様に求められる研究学会にしていきたいと思います」と挨拶がありました。学会委員会の熱意の元、来年度は更に進化した学会になると感じました。

(広報委員 武井)





ACP(人生会議)を考える

Advance Care Planning



人生の最終段階に向けた意思決定に看護職としてどう支援しますか

『ACP 愛称「人生会議」』という言葉を知っていますか。

平成30年3月厚生労働省は「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」を改訂しました。

また、11月30日（いい看取り・看取られ）を人生会議の日として、

人生の最終段階における医療・ケアについて考える日としています。

愛知県看護協会の委員会と地域でのACP活動をご紹介します。

看護師職能II委員会 交流会



人生の最終段階にむけた意志決定の支援 ～自分らしい生き方の選択～

日時

平成30年 10月27日(金)

参加者

103名

交流会は、受講申し込みが非常に多く、関心の高いテーマであることがうかがえました。

講師には碧南市民病院・訪問看護認定看護師 山端二三子氏、愛知県がんセンター中央病院・緩和ケア認定看護師 美濃屋亜矢子氏より実践事例に基づいた講義が行われました。山端氏からは、「医療者の中でも広く知れ渡っていない現状がある。医療者と患者がwin-winとなるために、ガイドラインを生かす工夫が必要である」また、美濃屋氏からは、「ACPは今までの看護を可視化したものであり、結果だけ書けば良いのではなく、プロセスをたどることが重要である。過去・現在・未来と本人の感情や価値に焦点をあてて支援することが大切である」と述べされました。

交流会ではグループに分かれ、病院・施設・在宅など異なる勤務場所の看護師がそれぞれの現場で抱える意思決定支援の課題が論議されました。老人保健施設入所中に麻薬による疼痛コントロールが必要となったり、家族が積極的治療を望まれたことで転院となるケースが生じたり、逆に本人に正確な情報が伝わらずに在宅に移行されるケースもありジレンマを抱える看護師の思いが語られました。参加者からは、「本人や家族の考えに相違があったときに、どのように声をかけば良いのか参考になった」、「家に帰れなくても本人が何を期待しているのか、理解することで環境は整えられる」、「病院での説明、意思決定のプロセス、人柄などを連携時に意識して確認したい」などの声が聞かれました。

改訂されたガイドラインが形骸化しないために、看護師はタイミングを逃さずに患者の意思を知る努力を行い、意思決定のプロセスに「点」ではなく「線」で関わることが大切と感じた交流会でした。

(広報委員 青山、藤井)





地域包括ケアの推進に向けて —地域における看取りを支える多職種連携・意思決定支援—

日時 平成30年 11月17日(土)

参加者 175名

住み慣れた地域で在宅療養と看取りを支える包括的支援の充実に向けて、看護職を中心に、ケアマネジャー・医療ソーシャルワーカー・介護福祉士などが参加し交流会が開催されました。

シンポジストからは、「在宅看取りの実現には“本人の意思”“家族の意思と覚悟”“サービス体制”的3条件が整う必要がある」、「日々の実践で意思を確認することはもちろん、実現するためには地域のチーム作りが課題である」と述べられました。

講演では、「地域での看取りにおける課題と解決に向けて」と題し、愛知県医師会理事の野田正治氏が、国や愛知県の膨大なデータから“看取り”的真実に迫る話がありました。施設での80歳以上の看取りが増加していますが、職員は死に直面する機会が少なく戸惑いを感じている状況にあり、施設入所前及び入所中におけるACPの重要性が述べられました。

意見交換会では、“本人にとって大切なキーワードの共有”など、参加者それぞれの立場でできる事について経験や意見が飛び交い、多職種連携に繋がる交流会でした。

参加者からは、「変化のスピードに医療者が追いついていない」、「地域でのACPの重要性をひしひしと感じた」、「具体的な行動、地域でのチーム作りの重要性が理解できた」といった意見が聞かれました。

(広報委員 相田、武田)



常滑市民病院 訪問看護ステーション「きずな」地域サロン



地域における啓発 —ACPは、あなたの心のプランです—

日時 平成30年 11月27日(火)

地域のサロン「きずな」で高齢者を対象に開催したACP啓発活動「もしバナゲーム」を取りました。「きずな」所長の渡邊和子氏がファシリテーターを絶妙に努められ、また民生委員等地域の方々も参加され、和やかな雰囲気の中で「人生の最終段階の医療について意思表明」がされました。参加者は4人1組になり、余命半年、次に3ヶ月という設定でカードに書かれている言葉について自分の思いを伝えカードの取捨選択を行い、そのプロセスの中で各々の大切にする「価値」が表出されていました。人生の最後にどうありたいか?最後に選択したカードは「機器につながっていない」「痛みがない」「清潔さが維持される」などで、「穏やかにすごしたい」という思いを皆さんを持っていました。また「家族の負担にならない」を選ばれた方は、家族に迷惑をかけたくないで病院で最後を迎えたいと言われていました。在宅における看取りの知識が不足している事も、このゲームの中から伺えました。



ACPの第一段階は病院や施設ではなく地域から始まります。家族や大切な人と人生の最終段階の選択「心のプラン」を語り合うことで「よく生きること」につながります。ACPを地域住民に周知していくことが私たち看護職の役割でもあると思います。

(広報委員 青山、前野、深谷)

出前講座

今年度から、在宅や福祉分野で働く看護職が
専門知識や技術を習得することを目的に
出前講座を開始しました。

参加者
104
名

日 時 10月15日(月) 17:30~18:30 会 場 足助病院 介護医療院

テ マ 「人生の最終段階における意思決定を支える援助」

講 師 緩和ケア認定看護師 永田 智子氏 (愛知県がんセンター中央病院)

長期療養が必要な要介護者に対し、医療並びに日常生活の世話をすることを目的に4月に開設された介護医療院では、高齢者の看取りを日常的に行っています。講義内容は具体的で大変分かりやすく、参加者は時に涙ぐみながら講義に聞き入っていました。相手に関心を持ち、心に寄り添える看護師でありたい、ともにいるとはどういうことか等を振り返る機会になりました。参加者の半数近くが近隣施設からでしたが、満足度の高い内容でした。

(専務理事 高木)



参加者
62
名

日 時 10月25日(木) 18:30~19:30 会 場 社会福祉法人福寿園 地域密着型複合福祉施設 ひまわり邸

テ マ 最期まで「食べる」を支える高齢者の食支援

講 師 摂食・嚥下障害看護認定看護師 伊藤 美和氏 (社会福祉法人西春日井福祉会特別養護老人ホーム清洲の里)

参加者の内訳は、看護職2割、介護福祉士3割、その他ケアマネジャー等の職種でした。

講義は、嚥下のメカニズム、高齢者の食行動のアセスメント方法、実際の支援技術等で、事例を交えながらの講義で大変理解しやすい内容でした。参加者から、「口に食物を運ぶだけが食事介助ではない。残した食物を観察することも重要だ」、「食事の姿勢は、明日から実践できる」との声がありました。看護職や介護職の皆さん、すぐに現場で実践したいと感じた意義ある講義でした。

(常務理事 和久田)



参加者
68
名

日 時 10月31日(水) 15:45~16:45 会 場 社会福祉法人いづみ福祉園

テ マ 「精神症状とその対応について」

講 師 精神看護専門看護師 木野 徳磨氏 (聖泉会聖十字病院)

貴重な学習の機会ということで近隣の他施設から3名の参加がありました。

講義は薬物療法と事例検討で構成され、薬物療法はよく使われる薬剤の特徴と副作用を知り“薬と上手に付き合う”というものでした。また、この施設での実際に困っている事例について“何故どのような対応が必要か”を解説いただきました。全体を通してこの施設に密着した内容を易しい言葉での講義であり、「普段の支援で活かしていける」と好評でした。

(常務理事 大藤)



看護職100年時代を生きる

国の働き方改革が推進される中、日本看護協会から「看護職の健康と安全に配慮した労働安全衛生ガイドライン—ヘルシーワークプレイス—」が平成30年3月に発行されました。

その意図は、「看護職が生涯を通じて健康に働き続けるために」ということです。日本は高齢化が進み、60歳以上の看護職が増加（2004年：16,678人、2016年：60,233人）し、11人に1人が60歳以上になりました。60歳を過ぎても生き生きと働いている看護職、地域貢献している看護職を紹介します。

*セカンドキャリア：定年後の働き方、生き方 出典：「ナースキャリア」草柳かほる／原美鈴／八幡成美 編著 東京医学社

*パラレルキャリア：第2の仕事、本業を持ちながら本業以外に社会活動を行う生き方 出典：「時間と場所を選ばないパラレルキャリアを始めよう！」石山恒貴著 ダイヤモンド社

セカンドキャリア

藤原 吉江（元名古屋第二赤十字病院 副看護部長、
元八千代病院 看護課長）

62歳で定年退職後1年間は失業保険受給のため休職しました。縁あって安城市の八千代病院へ片道20kmの道のりを5年4か月通いました。看護協会の理事も兼ねていたので会議のある日は60kmの走行でした。人材育成の重要性を認識して業務は現職の延長線上にあり、助産師に求められる「穏やかに、朗(ほが)らかに、しなやかに、いざという時にはキリリと強(したた)かに」を座右の銘として、皆が育っていくのを見るのがとても楽しみでもありました。

健康に恵まれ、73歳となる現在も、子育て支援・電話相談等、愛知県看護協会「看護ボランティアの会」などに所属させて頂き、いつまでも年相応の仕事があることに感謝しつつ、楽しく日々を満喫しています。プライベートでは、卓球・カラオケ教室で奮闘中です。



セカンドキャリア

石井 英子（人間環境大学大学院 特任教授）

ただいま77歳、後期高齢者の3年目。これからまだまだ、100歳まで23年もある。60歳で名古屋市役所保健師として満期退職後、趣味の教室に行くのもよいが、どうせなら、大学での学びをと思い、愛知淑徳大学大学院の受験をしました。その後、大学院の教授の機会を得て、これまでに5大学の教育経験をしました。4月からは岐阜保健大学（30年8月27日設置認可）に着任予定です。これまでの経験を生かして、看護学生の時から、地域住民との交流を図れる認知カフェ、母子支援センター、多文化共生センター、職種連携センターの設置を図っています。さらに、看護専門教育の先端のシミュレーションセンターを設置し、学生と教員、住民と一緒にになって、望まれる看護を考えられる教育を80歳まで自走しようと思う日々です。



パラレルキャリア

岡山 ミサ子（ホスピーグループ腎透析事業部 統括看護部長）

私は看護師キャリア39年、看護部長、統括看護部長など16年トップマネジャーをしてきました。12年前に「いのちの根の集い」を立ち上げました。看護師だけでなく異なる領域の仲間で「いのち、生きる」を真剣に語り合いたいという想いからです。一人の患者の自殺をきっかけに、「あいち自殺防止センター」を8年前に立ち上げ、ボランティアでの電話相談では、1,200人の悩みを聴いてきました。その後、4年前に青山学院大学に通い、「ワークショップデザイナー」になり、異業種の仲間との対話の場づくりをしています。昨年は「心といのちのケア専門家（オカン）」として、セミコングランプリ2018に出場して準優勝をいただきました。

私はこれまで、看護師としてのアイデインティティを軸としながら、時代や社会のニーズに合わせながらチャレンジしてきました。これから私は「心といのちのケア」ができる人を増やし、伝え、日本を元気にしていきたいと思っています。

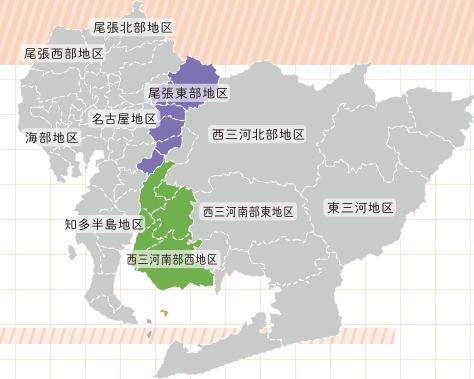


パラレルキャリア

富士 恵美子（株式会社 ななみ代表）

大学病院勤務や看護教員を経験したのち、「なんでもなかよくみんなで助け合って幸せに在宅で過ごすことができる」を理念として、2009年、52歳の時に「株式会社ななみ」を設立し、訪問看護・介護・ケアマネの事業所を営んでいます。また、地域包括ケア活動で介護予防のための体操教室も行っています。在宅支援診療所愛知県支部を立ち上げると同時に全国訪問ボランティアナースの会(キャンナス)の発会も行いました。重症心身障害児の子ども達が、親なき後に安心して暮らす事が出来るようにする為の考える会の役員もしています。日本ALS協会の運営委員、難病カフェの企画をし、1日でも楽しく過ごせるように今後もサポートして行きたいと思っています。私自身も自分の為にもそんな生き方をしたい。最近ではALSの方から東京オリンピックのツアー企画を頼まれ奮闘中です。





地区支部コーナー

尾張東部
地区支部

日 時 平成30年9月15日(土) 会 場 公立陶生病院

テーマ 「災害の備えは平時から!

自らを守り、地域も守る災害時連携を考えてみよう!」

近隣の医療施設や保健所、市職員から11職種89人の参加をいただき活発な交流会となりました。

まず、話題提供として講演会を実施し、その後「平時の備え」と「地域を守り合うための連携のあり方」について、グループディスカッションを行いました。講演1では、救急看護認定看護師の村田勇人氏から「減災は、災害を知ることから始まる!」を、最近の災害の画像を使って具体的に平時の備えや災害訓練のあり方、各フェーズの災害医療や看護の特徴について説明しました。講演2では、瀬戸市災害医療対策会議メンバーの二村ひとみ氏から「尾張東部地区の防災計画—実際に震度7が発生したらどう動くのか?—」と題し、災害発生時の国→県→市の体制と広域災害救急医療システム(EMIS)について説明しました。講演3では、公立陶生病院 経営戦略室次長 山下峰司氏から、瀬戸市地域防災計画や災害時の医療救護協定についてお話ししました。参加者アンケートで講演は95.7%が満足、グループディスカッションは90%が有意義だったとの高評価を得ました。

今回、身近な難問である“災害”をテーマに職種を超えて話し合うことで地域を守り合う仲間意識を持てたように思います。我らが総力を上げて地域防災力を高める活動や行政と協力して災害弱者の把握や登録を進めるなど具体的な方向性を確認し合うことができました。今後の発展につながる多職種交流会でした。

(尾張東部地区支部長 亀島 加代)



西三河
南部西地区
支部

日 時 平成30年10月6日(土) 会 場 碧南市民病院
テーマ 「もしバナ(話)ゲームで縁起でもない話を身边に」

講師は碧南市在宅医療サポートセンターの中西知加子氏で、看護師、保健師、MSW、ケアマネジャー、ボランティアなど27名の参加がありました。

昨年3月、人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインが改訂され、ACP(人生の最終段階の医療・ケアについて本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセス)の概念が組み込まれました。自ら意思を伝えられない状態になる可能性を考え、代わりに本人の意思を確認する者も一緒に事前に話し合うこと、意思は変化するので、病院だけでなく地域でもこのプロセスを何度も繰り返すことがポイントです。普段なかなか話し合うことのない人生の最期に向けて、余命1年と宣告されたらという設定で、カードを使い、大切にしたいことを話し合い、患者・利用者の立場での意思決定の体験を行いました。参加者からは、「最期の時を考える時に、立場や年齢の違いなどによって様々な考え方の違いがあることを知ることができた。人それぞれに思いの違いがあるので、その人の立場に立って考えられるようになれたらと思った。」「自分の大切にしていることが明確になり最期のことを考えているのに楽しくできた。」などの意見が聞かれました。

この体験が、患者の意思を尊重した意思決定支援の普及、地域全体でACPに取り組むきっかけになればと思います。

(西三河南部西地区支部役員 鳥居 ゆかり)



選挙公報

●2020年度 日本看護協会代議員及び予備代議員の立候補受付

2019年度の愛知県看護協会通常総会において、2020年度 日本看護協会代議員及び予備代議員の選挙を行います。(定款細則13条)

定款細則17条により、立候補の受付を行います。

立候補をされる正会員は、所定の手続きにしたがって届け出を行ってください。(ホームページに様式を掲載しています。) なお、代議員及び予備代議員の数は会員数によって割り振られ、各々38名です。

立候補締め切り

2019年4月19日(金) 必着

皆さまのご参加をお待ちしています! 平成30年度 三職能合同集会のお知らせ

日時 平成31年 2月13日(水) 10:00~15:30(受付9:30~)

場所 愛知県産業労働センター (ウインクあいち)

テーマ いのち、くらし、尊厳を守り支える看護 2018

第1部 職能集会 10:00~12:00

第2部 合同集会 13:15~15:30

講演:「地域包括ケアシステムの深化・進化
～地域で支えあうしくみづくり～」

日本福祉大学 地域ケア研究推進センター長 原田 正樹

協会のこの3ヶ月

Monthly News

マンスリーニュース

10月

- 2日(火) 認定看護管理者教育課程ファーストレベル 閉講式
5日(金) 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程 修了式、閉講式
9日(火) 知事要望… 愛知県知事公舎
10日(水) 第1回助産師出向支援事業検討会
12日(金) 第5回常務理事会
16日(火) 認定看護管理者教育課程セカンドレベル 開講式
18日(木)~19日(金) 東海北陸法人会員会、東海北陸職能委員長会… 石川県ANAクラウンプラザホテル金沢
20日(土)~21日(日) チュウキヨ~くんのすこやかフェスタ… 日本ガイシホール
23日(火) 前期監査
29日(月) 第5回理事会



チュウキヨ~くんのすこやかフェスタ

11月

- 6日(火)~8日(木) 災害支援ナース派遣調整合同訓練
27日(火) ナースセンター副知事視察… 愛知県ナースセンター名駅支所
28日(水) 愛知県病院協会意見交換会… 愛知県医師会館
30日(金) 認定看護管理者教育課程セカンドレベル 閉講式



災害支援ナース派遣調整合同訓練

12月

- 7日(金) 第6回常務理事会、愛知県医師会との懇談会
12日(火) 愛知県看護研究学会… 愛知県産業労働センター (ウインクあいち)
14日(金) 第2回助産師出向支援事業検討会
17日(月) 第6回理事会、第3回地区支部長会議

護ります。
支えます。
歩みます。
あなたといつも
一緒に。

2019 Winter

ナースセンター NEWS!!



愛知県ナースセンターは厚生労働大臣許可の

無料職業紹介所です。

看護職の方の就職活動を
サポートします!!



離職届けは
お済みですか?

看護師等の届出サイト

とどけるん



<https://todokerun.nurse-center.net/todokerun/>

顔の見える関係作りを大切に!!

| 施設訪問

訪問を始めて4年目、ナースセンターの活動をお伝えするとともに、施設の実態をお聞きしています。

施設の良いところ、力を入れていることはもちろん、看護職不足や施設経営の悩み等、直接お話しすることで、双方の思いがつながると感じます。

この「思い」をしっかり受け止め、求職者へフィードバックをしています。



| 学校訪問



県内の看護系学校を訪問して、ナースセンターの周知活動をしています。

みなさん、まばゆいばかりの瞳で話を聞いてくれます☆

この期待と希望に満ち溢れる光を絶やさないよう、「看護職」として継続して働き続けられるよう、サポートできればと思います。

困った時、何かあった時、迷わずナースセンターに相談してください!

届出制度にご協力を!!

| 届け出手続きはお済みですか?

育児・介護等で一旦離職する方、定年退職する方、キャリアチェンジで転職をする方等は、ナースセンターへ「届出票」の提出をしてください!!

届け出ってナニ? 届け出るとどうなるの?

そんな疑問もあるでしょう。ナースセンターにぜひ、お問い合わせください。



●愛知県ナースセンター

〒466-0054 名古屋市昭和区円上町26番15号 愛知県高辻センター1階

TEL: 052-871-0600 / FAX: 052-883-3686

メール: aichi@nurse-center.net

●名駅支所

〒450-0002 名古屋市中村区名駅4丁目4-38 愛知県産業労働センター(ウインクあいち) 17階

TEL: 052-433-1173 / FAX: 052-433-1175

メール: meieki@nurse-center.net

訪問看護職員交流会開催しました!

| 10月20日(金)

講演

「エンドオブライフ・ケアにおける在宅療養者の支援～看取りを中心に～」

情報交換会 テーマ別の情報交換会

エンドオブライフ・ケア/他職種との連携/困難事例/
リスクマネジメント/家族支援/その他参加者から寄せられたテーマ



- 講演内容に興味があって参加しました。
明日からの訪問にも活かせる内容でした!
- 交流会では、いろいろな意見を聞くことができ良かった。
- 同じ悩みを共有できて少し安心しました。

今後聞きたい講演テーマ

認知症ケアや小児の栄養、
嚥下指導、関わり方について、
訪問看護の災害時の対応等

次年度に向けて企画して
いきたいと思います!!



看護職復職支援交流会開催しました!

| 10月26日(金)

ライセンスを生かし続けるために

講義 「認知症と看護の実際」



- 認知症について基本から実際まで学ぶことができて良かった。
- 講義を聞くと、自分自身の意識を高めていくことができる。
- 交流会で思いを共有することができ、あきらめず探して
いこうと思った。

| 12月1日(土)

キャリアを生かしていくために

講演 「キャリアを生かしていくために」

講義 「介護施設における看護職の役割」



- 色々な不安を持っていましたが、同じ境遇の方と話したり、講師のお話を伺え、とても学びになりました。
- 講演を聞いて、参加者と交流をして、やはり自分はナースなんだと熱くなりました。もう一度頑張ってみたいです。
- 施設や病院、色々な特徴を具体的に知りたいと思いました。



●豊橋支所

〒440-0888 豊橋市駅前大通2丁目33番地の1 開発ビル4階

TEL: 0532-52-1173 / FAX: 0532-52-1166

メール: toyohashi@nurse-center.net

愛知県ナースセンター

検索

<https://www.aichi-nurse.com/>



理事会報告

第5回 理事会 平成30年10月29日(月)

協議事項

- ① 特定行為研修検討委員会(特別委員会)の設置について
協議後、原案が承認された。
- ② 2019年度重点事業(案)について
協議後、原案が承認された。

報告事項

- ① 日本看護協会理事会報告(9月14日開催)
- ② 平成30年度愛知県看護協会事業報告(7月~9月)
- ③ 愛知県知事への要望書提出について
- ④ 2019年度委員会・地区支部の事業計画・予算立案について
- ⑤ 平成30年度9月北海道胆振東部地震へのお見舞いについて
- ⑥ 平成30年度日本看護協会災害支援ナース派遣合同訓練について

第6回 理事会 平成30年12月17日(月)

協議事項

- ① 新会館建設準備委員会(特別委員会)の設置について
協議後、原案が承認された。
- ② 社会経済福祉委員会(常任委員会)の名称変更及び定款施行細則の一部改正について
協議後、修正が加えられ承認された。
- ③ 広告掲載要綱について
協議後、継続審議となった。
- ④ 2019年度通常総会プログラム(案)について
協議後、原案が承認された。

報告事項

- ① 日本看護協会理事会報告(11月21日、22日開催)
- ② 平成30年度 地区別法人会員会・職能委員長会報告(10月19日開催)
- ③ 協会行事運営協力者に対する傷害保険の加入について

ホームページを開設しました!

第50回日本看護学会 -看護管理-学術集会

2019年10月23日(水)・24日(木)

新・看護管理

ー看護の原点をみつめ未来を拓くー

会場:名古屋国際会議場

演題申し込み期間

2019年2月1日(金)から6月10日(月)

多くの演題のご登録をお待ちしています!

主催: 公益社団法人日本看護協会・公益社団法人愛知県看護協会

訃報

慎んで哀悼の意を表し、
ご冥福をお祈り申し上げます。

安藤 良美様(51歳) 看護師
社会医療法人 財團新和会八千代病院
(平成30年10月24日永眠)

新井田 龍次様(56歳) 看護師
医療法人 生生会まつかげシニアホスピタル
(平成30年11月4日永眠)

星野 亜梨沙様(40歳) 准看護師
個人会員
(平成30年11月13日永眠)

江崎 幸子様(56歳) 看護師
社会福祉法人 杏嶺会上林記念病院
(平成30年11月29日永眠)

表紙の写真について

小牧市役所北側に標高86mの小牧山があり、山頂には昭和43年建設された小牧城(小牧市歴史館)があります。小牧城は織田信長の命により築城され、近年の発掘調査から信長公は日本で初めての本格的な城下町づくりを目指していたと推測されます。毎年、10月に小牧市民まつりが開催され、偉大なる信長公とそのゆかりの三姫(濃姫、吉乃、お市の方)をたたえて市民の皆さまによるパレードが行われます。

小牧城4階は展望室となっており、周囲の景色を一望することができます。是非、お越しいただき、信長公の気分になって小牧市内をご覧ください。

明けましておめでとうございます。

昨年は猛暑と診療・介護報酬両改定であつという1年でした。中でも「ACP」という文字を、超高齢化・多死社会を迎えるに当たりよく見かけたのではないか?30数年前に千葉敦子というジャーナリストが癌に罹患し「よく死ぬことは、よく生きることだ」という本を残しています。そこにはまさに意思決定の真髄が書かれています。今年一年頑張って「よく生きていこう!」と思っています。

広報委員 青山

編集後記

●会員数 37,813人(平成30年11月30日現在)(保健師561人/助産師1,511人/看護師34,830人/准看護師911人)

発行:公益社団法人愛知県看護協会 名古屋市昭和区円上町26番18号 TEL:052-871-0711 FAX: 052-871-0757 E-mail: aikan@aioros.ocn.ne.jp 発行責任者:鈴木 正子 発行日/平成31年1月31日